

令和2年度第1回医療審議会・議事概要

1 日時・場所

令和2年11月17日（火）10:00～11:10 ・ 共用第2会議室

2 審議（委員の主な意見）

（1）第7次山口県保健医療計画の中間評価・見直し（素案）について

第2編 第1章 がん

【三浦委員】

- ・がん検診の受診率がほとんど変わらないか、むしろ低くなっている状況。とくに女性のがん検診受診率が非常に低い。職域の検診受診率を把握することは難しいと考えるが、市町と職域を含む受診率の把握についてどう考えているのか。

⇒・どうしてもタイムラグがあるが、現状を把握する指標として、基本的には国民生活基礎調査の数字を用いている。

- ・今年には新型コロナ感染拡大の影響で検診の受診率が落ちているが、県として、今後どう受診率を上げていくのか。

⇒・今年には、新型コロナ感染症の影響で、一部市町で検診が予定どおり実施できていないという報告も受けているが、検診を受けることの重要性は変わらないため、市町に対しては、感染症対策を行った上で予定通り実施していただくように求めている。

- ・県では、2人1組で誘い合っただけでがん検診を受けていただくキャンペーンを実施しており、このキャンペーンを工夫しながら、より多くの方にがん検診に行ってもらえるような取り組みをしていきたい。

- ・特に女性の受診率向上のために、何らかの方策がやはりこれから必要になってくると思うので、よろしく願います。

【杉野会長】

- ・検診率が悪い年齢層を狙って効果的にキャンペーン等をしていったらもう少し率が上がるんじゃないかというようなご指摘をいただいたと思うので、それも含めてよろしく願いたい。

【吉田委員】

- ・医療機関にかかっている方は、啓発ポスターなど目にする機会があるが、かかっていない方で検診の必要な方に対して、効果的に取り組んでいただきたい。
- ・医療機関にかかる前段階で薬局を利用する方が多く、健康エキスパート薬剤師を、薬務課と今度取り組むことになっており、そちらの方に委託して、検診を促すアプローチをしてはどうか。

⇒・貴重なご意見を踏まえて、さらに検診のPRの場を広げたりして対応を図っていききたい。

【田中委員】

- ・がんについては、文科省において、小中高の幼少期からもがん教育を進めること

によって、家族全体への波及効果をもたらし、がんに対する意識を啓発し、早期自主検診等につながるような取組を行っている。本県でも行われているので、取組みを特筆してもよいのではないか。

⇒ 追記の方向で検討したい。

【杉野会長】

- ・実際にしっかりやっているので、機会があればそういうところも、何らかの形で見えるようにされたいと思う。

第2編 第5章 精神疾患

【吉田委員】

- ・認知症施策の推進体制の確保について、新オレンジプラン（認知症施策推進総合戦略）に基づいて県歯科医師会と県薬剤師会が認知症対応力向上研修を行っている。県では607名研修を修了している。認知症サポート医の記載だけでなく、このような取組も記載してほしい。

⇒ 薬務課の方にも確認、調整して、検討させていただきたい。

第4編 在宅医療

【西生委員】

- ・在宅医療のところの訪問看護ステーションの指標について、数値は増えているとなっているが、閉鎖した事業所もあるので、その内容についても検討してもらいたい。
- ・また、県内には小規模の訪問看護ステーション数が多く、高齢化が進んでいることから、今後訪問看護ステーションの看護師が一層必要になる。このため、施設数だけではなく、訪問看護師の数も合わせて考えてもらいたい。

⇒ ・県内では、平成30年度で約600人程度の方が訪問看護ステーションに従事しているという状況。
・施設があっても常時従事される方がいないと大変困った状況になるため、その辺の内容についてもしっかり県としても考えていきたい。

【吉田委員】

- ・山口県薬剤師会では、在宅薬事コーディネーターを育成しており、病院から自宅へスムーズに在宅医療が進むような取組をしている。薬局数の数値としてあげるの難しいかもしれないが、掲載していただくことで、対外的に取組を明確に示すことができ、活動範囲も拡大できると思う。

⇒ 薬務課の方にも確認、調整して、検討させていただきたい。

【杉野会長】

- ・認知症サポーターに関わる職種の内訳が分かると、弱い部分や非常に頑張っているところが分かり、今後の力の入れようもあると思う。どんな職種が関わっているのかを今後の調査に含めてはどうかという意見だったので、ぜひ事務局にお願いしたい。

<議案は承認された>

(2) 山口県医療法人部会の一部改正について

意見等なし

<議案は承認された>

3 報 告

(1) 病床機能再編支援補助金に係る取り扱いについて

【藤本委員】

- ・ 県予算はどうなっているのか。
⇒ ・ 国が10分の10ということで、県の方は国から受け入れてそれをそのまま交付するという形になる。
- ・ 2月補正で枠確保を今のところ考えているが、額の付け方が、県である程度の枠でもらえるのか、それとも申請医療機関ごとに国が示すのかも不明である。準備の方は進めたいと考えている。